

1. 復活！不昧公大圓祭

特に所蔵者の表記がない作品は全て阪急文化財団蔵です。

前期 4月6日(土)～5月6日(祝・月) 後期 5月8日(水)～6月2日(日)

	作品名	作者	制作年	展示期間		所蔵者名
				前期	後期	
1	書一字「響」	松平不昧	江戸時代	○		個人蔵
2	書二字「春月」	松平不昧	江戸時代	○		個人蔵
3	書「虚堂禅師上堂」	松平不昧	文化十二年	○	○	
4	書二字「忘筌」	松平不昧	江戸時代		○	個人蔵
5	手本帳 貫之長歌	伝松平不昧	江戸時代	○	○	
6	旅中消息 たれにげの文	松平不昧	江戸時代		○	個人蔵
7	茶の湯巻物	松平不昧	江戸時代	○		個人蔵
8	茶銘「中之白」命名文	松平不昧	寛政八年	○		個人蔵
9	釜注文の文 図入 (下間庄兵衛作面取釜に付随)	松平不昧	江戸時代		○	個人蔵
10	狂歌「茶をたて云々」	松平不昧	江戸時代		○	個人蔵
11	浦の苫屋自画賛	松平不昧	江戸時代		○	個人蔵
12	福祿寿画賛 伊川院亀図	松平不昧	江戸時代		○	個人蔵
13	瓢箪自画賛	松平不昧	江戸時代	○		個人蔵
14	円窓富士図 不昧賛	狩野惟信	江戸時代	○		個人蔵
15	石燈籠絵巻	松平不昧	江戸時代	○	○	
16	大井戸茶碗 銘「亀井」		李朝時代		○	個人蔵
17	手造赤茶碗	松平不昧	江戸時代	○	○	
18	布志名焼色絵秋草図茶碗	永原雲永	江戸時代	○		島根県立美術館
19	膳所焼茶入 不昧歌銘「五月雨」		江戸時代	○		湯木美術館
20	楽山焼肩衝茶入 不昧銘「黄なだれ」	長岡住右衛門	江戸時代	○		個人蔵
21	溜塗竹中次 不昧好	小島漆壺斎	江戸時代	○		田部美術館
22	大菊棗 不昧好 三十ノ内	原羊遊斎	江戸時代		○	田部美術館
23	夜菊棗 不昧好 三十ノ内	小島漆壺斎	江戸時代	○		個人蔵
24	キリギリス香合 不昧好	原羊遊斎	江戸時代	○		田部美術館
25	菊桐写香合 不昧好	小島漆壺斎	江戸時代	○		島根県立美術館
26	片輪車蒔絵香合 不昧好 三十ノ内		江戸時代	○	○	
27	張甲牛香合 不昧好 三十ノ内	小島漆壺斎	江戸時代		○	個人蔵
28	利休形塗茶杓 不昧好 十五ノ内		江戸時代		○	田部美術館
29	共筒茶杓 歌銘「袖ひちて」	松平不昧	江戸時代		○	個人蔵
30	共筒茶杓 歌銘「花山の」	松平不昧	江戸時代	○		個人蔵
31	竹一重切花入 銘「初雪」	松平不昧	江戸時代	○		個人蔵
32	竹尺八花入	松平不昧	江戸時代		○	個人蔵
33	竹蓋置 銘「太郎」	松平不昧	江戸時代		○	湯木美術館
34	呉州菱馬水指		明末清初	○	○	

2. 小林一三と松平不昧

<逸翁がみた「雲州蔵帳」収載作品>

35	安楽庵策伝像 安楽庵賛	松花堂昭乗	江戸時代	○	○	
36	珠光青磁刻花文茶碗 不昧銘「早苗」		元時代	○	○	
37	丹波耳付茶入 銘「生野」		江戸時代		○	湯木美術館
38	少庵寄附・公用文字釜	辻与次郎	桃山時代	○		湯木美術館

<小林一三収集の不昧関連作品>

39	書二字「如是」	松平不昧	江戸時代	○	○	
40	書一行「強醒々々」	松平不昧	江戸時代	○	○	
41	書二字「思河」	松平不昧	江戸時代	○	○	
42	消息 天真和尚宛	松平不昧	江戸時代	○	○	
43	消息 宗瑜公宛	松平不昧	江戸時代	○	○	
44	消息 晋山宛	松平不昧	江戸時代	○	○	
45	文切 野点手前控	松平不昧	江戸時代	○	○	
46	唐津刷毛目塩筥茶碗 不昧銘「早咲」		江戸時代	○	○	
47	赤茶碗 不昧銘「木枯」	玉水一元	江戸時代	○	○	
48	瀬戸黒茶碗 不昧銘「松風里」		桃山時代	○	○	
49	萩茶碗 銘「忘水」		江戸時代	○	○	
50	布志名焼立鶴茶碗		江戸時代	○	○	
51	楽山焼半筒茶碗		江戸時代	○	○	
52	瀬戸大瓶手茶入 不昧歌銘「紅」		室町時代	○	○	
53	秋野蒔絵棗 不昧好写	四代漆壺斎	明治～大正	○	○	
54	鮫鱈茶器 不昧好写	四代漆壺斎	明治～大正		○	
55	黒漆菊棗 不昧好 三十ノ内	小島漆壺斎	江戸時代		○	
56	こぼれ梅花蒔絵棗	原羊遊斎	江戸時代		○	
57	共筒茶杓 銘「卯の花」	松平不昧	江戸時代	○		
58	共筒茶杓 銘「緑」	松平不昧	江戸時代	○		
59	共筒茶杓 銘「つるくび」	松平不昧	江戸時代	○		
60	共筒茶杓 銘「白菊」	松平不昧	江戸時代	○	○	
61	共筒茶杓 銘「山里」	松平不昧	江戸時代	○	○	
62	共筒茶杓 銘「有明」	松平不昧	江戸時代	○	○	
63	手造面取香合	松平不昧	江戸時代	○	○	
64	白粉解桜蒔絵香合 不昧好	小島漆壺斎	江戸時代		○	
65	回也写香合 庸軒好		江戸時代	○	○	
66	キリギリス不昧好	松枝不入	江戸時代		○	
67	竹蓋置	松平不昧	江戸時代	○	○	
68	竹筒花入 不昧歌銘「蔦の細道」	松平不昧	江戸時代	○	○	

69	竹尺八花入 銘「鵲」	松平不昧	江戸時代	○	○	
70	竹一重切花入 不味歌銘「岩橋」	松平不昧	江戸時代	○	○	

<特別展示>

71	円相蝶自画賛	松平不昧	江戸時代	○		湯木美術館
72	瓢香合 銘「達摩」	松枝不入	江戸時代		○	湯木美術館

特別展示 茶室の室礼

昭和 31 年 12 月 2 日「日本美術工芸」山陰大会による

床	堺色紙	伝藤原公任筆	平安時代
花入	黄瀬戸耳付		桃山時代
香合	交趾黄鴨		明時代
釜	筋万代屋	辻与次郎作	桃山時代
水指	志野矢筈口		桃山時代
茶器	桐文蒔絵螺鈿雪吹	伝山本春正作	江戸時代
茶杓	共筒 三不点のうち	古田織部作	江戸時代
茶碗	粉引 銘「朝陽」		朝鮮王朝時代
替	唐津 石はぜ		江戸時代
菓子器	鼠志野長方平鉢		桃山時代

◇この茶会は、昭和 31 年 12 月 2 日に、雑誌「日本美術工芸」の創刊 200 号を記念し、出雲市内で行われた茶会に貸し出された道具組です。釜の記載はなかったため、同月の茶会で使われていた与次郎の釜を取り合わせました。◇

次回予告 2013 夏季展 「虫と魚の美術館 -日本人が見つめた小さな命-

7月13日(土)~9月8日(日)



洋盞螢図 柴田是真筆

み一つけた。グラスにホタル、なんかお洒落。萩の花にチョウチョ、ホオズキにカマキリ、秋ですねー。そして 100 の花と 100 の虫を描いた金屏風！ホントに 100 匹描いてあるのかな？

こちらは、藤の花の下で泳ぐコイが優雅。赤いキンギョ、丸っこくて可愛い。笹の上の鯛、これから焼き魚かお刺身になりそう。扇子の紅いエビ、何見てる？

絵だけじゃないよ、小さな花やチョウチョが宝石みたいなキレイなお皿。あっさりと木地の棗にアカトンボ(一句)。わー、茶碗の中にカニが隠れてる！

ここは一体、昆虫館？水族館？いいえ美術館です。私達の身の回りの絵や器には、身近な虫や魚の姿がいっぱい。日本人が大切にしてきた小さな命へのまなざしを、この夏、発見してください。